

---

# こんな夢を見た。

ミズキシホ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

こんな夢を見た。

### 【Nコード】

N5406C

### 【作者名】

ミズキシホ

### 【あらすじ】

あなたは最近どんな夢を見ましたか？

桜の満開の下を歩いている。  
待ちに待った年に一度の桜。  
嬉しくて嬉しくて、

とにかく嬉しい。

桜の花びらが舞っている。

季節外れの雪のようだ。

雪なら傘を差さなければ。

傘を取りに行かなければ。

傘はどこ？

あのお気に入りの傘は。

車？ ない。

クローゼット？ ない。

傘がないと桜を見られない。

こうしている間に刻一刻と桜は散ってしまう。

傘がないと桜を見られない。

傘はどこ？

あの傘はどこ？

傘がないから今年の桜は見に行けないといって泣いている、

という夢を見た。

夜道を歩いている。

満天の星がとてもきれいで、

街灯もない道なのに明るい。

ひとつふたつと数え始めたら、

ひとつふたつと星が落ちてくる。

落ちてきた星をひとつふたつと拾って、  
海へひとつふたつと投げたら、  
一匹二匹と飛ぶ魚になった、

という夢を見た。

花火を見ている。

すぐ近くで上がっていて、

火花がヒラヒラと散っていく。

兄が、

「あれを拾いに行こう！」と言う。

「ウン、行く！」とわたしが言う。

途中まで行つて、

兄は引き返す。

「なぜ？ 拾いに行かないの？」

「もう消えてしまったよ。」

大きく膨れ上がった気持ちが一気にしぼんでいく。  
とても悲しい。

あれは小さい頃のわたしだ、

という夢を見た。

知らない誰かなのか、

もうすでに知っている誰かなのか  
誰かと話している。

「今、この瞬間は『夢』だけど、  
いつか必ず会う日があるよ。

偶然ではなく必然。

そんな日が来るから、必ず。」

という夢を見た。

小包が届いた。

包みをほどくと、

探していた傘だ。

これで桜を見に行ける！

という夢を見た。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5406c/>

---

こんな夢を見た。

2010年11月7日08時17分発行